

令和 4 年 5 月 4 日現在

機関番号：23302

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02264

研究課題名（和文）西田幾多郎のノート類史料の研究資料化と哲学形成過程の研究

研究課題名（英文）Kitaro Nishida's research materials on notebooks and research on the process of philosophical formation

研究代表者

浅見 洋 (Asami, Hiroshi)

石川県立看護大学・看護学部・特任教授

研究者番号：00132598

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,300,000円

研究成果の概要（和文）：1995年10月に西田幾多郎の水損した未公開ノート50冊と大量のメモ類が西田の末裔の自宅から発見された。資料の修復、資料の一次翻刻、二次翻刻を終えたノートの内「倫理学講義ノート」、「宗教学講義ノート」を編集し、2020年9月に『西田幾多郎全集 別巻』として岩波書店から刊行した。また、ノート50冊の全頁を「西田幾多郎ノート類デジタルアーカイブ」として石川県西田幾多郎記念哲学館のホームページ上で、ノート毎に使用言語、書き方の体裁、出典調査の有無などの資料情報を記して公開した。それらの研究成果によって、今日まで日本哲学史において基軸となってきた西田哲学の新たなテキスト、研究資料を提供した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西田幾多郎の水損した未公開ノート50冊とメモ類5束の修復、資料翻刻を進め、2020年9月には「倫理学講義ノート」、「宗教学講義ノート」の計8冊を『西田幾多郎全集 別巻』として刊行した。また、ノート50冊の全頁を「西田幾多郎ノート類デジタルアーカイブ」として石川県西田幾多郎記念哲学館のホームページ上で公開した。さらに、『別巻』の「解題」「後書」等で本資料のもつ学術的意義、社会的意義を明らかにした。それらの研究成果によって、西田哲学形成過程研究の新たな発見とともに、日本哲学史、比較思想研究の深まりが生み出される可能性がある。

研究成果の概要（英文）：In October 1995, Kitaro Nishida's 50 undisclosed notebooks and a large number of memos were found in Nishida's descendant's home. Edited "Ethics Lecture Note" and "Religious Studies Lecture Note" among the notes that have been restored, the primary reprint of the material, and the secondary reprint, and in September 2020, from Iwanami Shoten as "Kitaro Nishida Complete Works Separate Volume". Published. In addition, all pages of the 50 notebooks will be referred to as the "Kitaro Nishida Notebook Digital Archive" on the homepage of the Kitaro Nishida Memorial Philosophy Museum in Ishikawa Prefecture. Published. Based on these research results, we provided new texts and research materials on Nishida's philosophy, which has been the cornerstone of Japanese philosophy history to this day.

研究分野：日本哲学

キーワード：西田幾多郎 未公開ノート資料 水損資料の修復 翻刻 研究資料化 全集別巻刊行 デジタルアーカイブ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

2002～09年に刊行が完結した新版『西田幾多郎全集(全24巻)』(岩波書店)には旧版の増補改訂第三版『西田幾多郎全集(全19巻)』(1978～1980)刊行以降に見いだされた未収録作品に加えて、旧版では未収録であった講義記録、講義ノート、研究ノート、書簡、対談等が何編か収録された。それらの新資料の多くは、研究者が発見したものと西田幾多郎の親族や関係者から石川県西田幾多郎記念哲学館(以下「哲学館」と記述)等に寄贈されたものである。前者は大橋良介・茅野良男共編『西田哲学新資料と研究への手引き』ミネルヴァ書房、1987、浅見洋「西田幾多郎 落ち穂拾い(1)～(9)」、『点から線へ』西田記念館、1993年～2001年などで紹介された新資料であった。それらの新資料の中で研究資料として価値があるとみなされたものはほぼ新版全集に掲載された。また、後者は西田の書簡、書、遺品、関係者に関する一、二次資料等であり、哲学館所蔵のものだけでもかなり大量に存在し、データベース化が少しずつ進めてきた。また、京都大学大学院文学研究科の林晋らが構築した「京都学派アーカイブ」では西田の直筆原稿がWeb上で公開され、研究資料として供用されている。

2015年10月に西田幾多郎の遺族から石川県西田幾多郎記念哲学館(館長:浅見洋)に西田直筆ノート約50冊、大量の考察メモ、原稿類など(以下:ノート類と記述)、未公開の一次資料が寄託された。ただし、この寄託資料は水損、カビ、虫食い、インクの流出等、汚損が激しかったことから、2016年10月現在、国立奈良文化財研究所、修復業者の協力を得て、修復作業を行った。その資料価値については十分な確認は出来ておらず、推測の域を出なかったが、新版『西田幾多郎全集』(岩波書店)に未収録の資料がかなり多く含まれていることが判った。

確認できる範囲では、今回寄託された資料には旧制第四高等学校、京都帝国大学時代等の講義ノート(11冊)、東京帝国大学選科在学中(1891-94年)のノート(10冊)、時期が特定できない研究ノート(10冊程度)、読書ノート(15冊程度)、考察メモ、原稿類など(積み重ねた厚さ30cm、以下、メモ類と記す)が存在し、多くは日本語、ドイツ語、英語で筆記されており、ギリシア語、ラテン語、フランス語漢文なども散見された。それらは書かれたと推定される時期、種類(講義ノート、読書ノートなど)と汚損程度によってA～Lの12ブロックに分けて分類し、便宜的に資料番号を付した。その後、資料修復、翻刻、分析、解読調査を実施する予定を立てた。その結果次第では、西田哲学の生成過程のみならず、近代日本哲学史の一側面をより克明に描き出す一級の研究資料となる可能性があった。

## 2. 研究の目的

本研究対象である西田幾多郎の未公開直筆ノート50冊と大量の考察メモ、原稿類は水損、カビ、虫食い、インクの流出等、汚損が激しいことから、まず資料の修復作業中を実施し、修復可能性のある全資料の修復完了を最初の目標とした。次いで資料翻刻を一次翻刻、二次翻刻の2段階に分けて実施した。一次翻刻は基本的な文字お越しであり、二次翻刻は一次翻刻で翻刻できなかった文章、文字の判読、不十分な解読のチェックとともに、西田が参考、引用した文献の探索を行った。

これまで、西田幾多郎全集等で公開されていない未公開資料であり、研究資料として価値があるとみなした資料は年度ごとに刊行する『西田幾多郎未公開ノート類の研究資料化 報告』で報告した。また、2020年度の「西田幾多郎生誕150年」を目標に、新版『西田幾多郎全集』(岩波書店)の『別巻』等として公刊できるように翻刻、編集作業を行った。

そのように、本研究の主目的は寄託資料を含めた哲学館所蔵資料全体を可能な限り刊行物、アーカイブとして研究資料化することである。一級の未公開資料と見なされるものを刊行物として、解説を付して刊行することによって、日本哲学の基軸となってきた西田哲学の形成過程の研究、日本哲学史研究にも新たな知見を投じることを目指した。

## 3. 研究の方法

### 1) 汚損資料の修復

本研究の対象であるに公開ノート類が哲学館に寄せられた時点で、かなり汚損、水損が進んでおり、固着したものが多く、ノートの頁とメモ類一枚一枚を展開する(切り離す)必要があった。そのため、水損資料の乾燥、カビ、虫食いの洗浄、破損箇所の修復、画像データ化のために全頁の写真撮影を行った。乾燥、洗浄、修復、撮影(以下、総称して「修復作業」と記す)の目的は史料のさらなる劣化を防ぐこと(保存資料化)、展示・教育・研究資料としてふさわしい状態をできるだけ回復すること(展示資料化、研究資料化)である。

具体的には、2015年度末から、日本でも最高度の乾燥処理技術と史料修復技術をもった国立奈良文化財研究所と関連の修復業者に依頼して修復の調査及び作業を行っていただいた。奈文研での真空凍結乾燥処理、修復業者のクリーニングの結果、2018年度末で「ノート類」、「メモ類」全ての修復、クリーニング、展開、写真撮影、画像データ化をほぼ終えた。史料そのものと修復作業過程を画像データファイル化することは、保存史料の劣化を防ぎ、将来のデータベース化、アーカイブ化に備えることができるという点で、博物館、資料

館の事業に関して IT 技術がもたらした大きなメリットである。しかし、人文学、特に哲学関係史料に関しては、修復を終えた資料をそのまま画像データ化することによって、資料調査・研究という役割が完遂するわけではない。資料展示、資料保存の観点からはレプリカ作成が必須であり、加えて教育・研究資料化のためには手書き文字の丁寧な翻刻と活字化が課題となる。

## 2) 翻刻と研究資料化の方法と方針

修復の見通しがほぼ立ち、判読可能性が高い「ノート類」のうち、社会教育・研究資料として価値の高い講義ノートから順次翻刻に取り組んだ。汚損やインク流れ等による文字消失、不鮮明箇所がかなりあり、ノートであるから見え消し、書き込み、訂正、縦書き、略記、判読できない文字、誤記、脱字等があることに加えて、日本語(ひらがな、カタカナ、漢字)と欧語の文字表記が混在していた。そうした修復された「ノート類」も含めて、館の所蔵資料をデータベース化、アーカイブ化することは現代の博物館にとっては必須の情報化作業であり、哲学館としてもより汎用性をもった研究資料化、西田研究、日本哲学研究のプラットフォーム化を目指している。そのため、研究資料として価値が高いと考えられる文字情報は、解説、分析を加えながら活字による出版、刊行を目標とした。「ノート類」翻刻の順序としては、最初にひらがな、カタカナ混じりノート(32冊)を、次いで欧語ノート、レポート類のうち、資料価値を有するものを優先的に翻刻した。

具体的作業は基本的には一次翻刻、二次翻刻の2段階に分けて実施した。この2つの段階を判然と区分することはできないが、基本的には一次翻刻では翻刻、編集方針に基づいて、ノート毎の文字おこし、誤記の明示などを行った。二次翻刻では判読不明箇所の判読、誤読箇所の修正、体裁の統一などと同時に、人名、著書名の確認、専門用語の解説、引用元との照合、省略箇所等の補足、欧文箇所の翻訳、引用文献・登場人物の解説などを行った。

一次翻刻は、これまで類似資料、文献のアーカイブ化や翻刻経験が豊かな分担研究者の林晋、森雅秀両氏を通して京都大学、金沢大学に業務委託し、両大学のOD、院生、学生等を雇用して実施した。担当区分の大まかな目安は、西田の京都帝国大学在職時代以降と推測されるノートは京都大学で、それ以前の第四高等学校在職時代などに書かれたと推測されるノートは金沢大学が担当した。ノート類は日本語、ドイツ語、英語など複数言語による直筆資料であり、二次翻刻には西田の筆致と思考に慣れ、哲学用語、哲学史、外国語にある程度習熟した研究協力者に依頼した。さらに、二次翻刻した資料のより詳細な資料分析、解説は西田哲学、日本哲学研究者である科研の分担研究者、連携研究者、研究協力者が中心となって実施した。加えて、ドイツ語、英語、漢文の直筆原稿翻刻に長けた専門家やノートで引用されている特定の哲学者、文学者等に関して分担研究者と造詣の深い研究者に知識提供をお願いした。

翻刻作業には、林晋を中心に開発された「人文学におけるテキスト研究用のオープンソースソフトウェア SMART-GS (SMART-Geschichte Studie)」を用いた。林はそれまでに SMART-GS の開発や、「京都哲学アーカイブ」を構築するなど、資料情報化に非常に優れた実績を残している。SMART-GS のレクチャーの後、2017年2月から試行として金沢大学で倫理学講義ノートの一部(B05)、京都大学で宗教学講義の一部(E04)の翻刻を開始した。次いで2018年5月からそれらを対象に、本研究の研究協力者である若手研究者を中心に二次翻刻を実施した。

## 4. 研究成果

### (1) 研究成果の概要

本研究は2020年9月23日の『西田幾多郎全集 別巻(「倫理学講義ノート」「宗教学講義ノート」所収)』(岩波書店)の刊行をもって、研究資料化の第一段階を終えた。

西田幾多郎記念哲学館では2019年度中に修復された未公開ノートのレプリカ(複製品)を活用し、2020年度前期特別展「発見!! 幾多郎ノート」(2020年3月24日~2020年9月22日)、2020年度後期特別展「本になる—執筆・校正・編集」(2020年9月24日~2021年3月21日)を開催し、別巻刊行に至る本研究の過程を紹介した。

また、研究代表者の浅見が解説する動画「西田幾多郎直筆ノートを開く」(修復)、「西田幾多郎直筆ノートを開く」(翻刻)、「西田幾多郎直筆ノートを開く」(資料化の意義)を製作し、哲学館のHP上で公開し、さらに、2020年度京都人文学教室オンラインセミナー「西田幾多郎生誕150周年記念~西田幾多郎の哲学とは~」の第2回、浅見洋「京大での西田幾多郎講義ノートを開く - 全集別巻刊行までの軌跡 -」(2020年1月29日)等でも本研究とその成果を紹介した。

### (2) 別巻刊行について

岩波書店に最初に別巻の原稿をメール添付で入稿したのが2020年1月中旬であった。まず倫理学講義ノート5分冊、宗教学講義ノート4分冊の計9ファイル、中表紙、目次と凡例、(解題1)倫理学講義ノート、(解題2)宗教学講義ノート、人名索引、後書の6ファイル、次いで75点の挿入用図版をフォルダーに入れて送付した。その後、新型コロナウイルス感染拡大で館でも岩波書店でも業務に若干の支障が生じた、校正、見本組の確認などを

経て、ゲラ校（初校）が哲学館に届いたのが3月中旬、初校戻しが4月中旬であった。そうした進捗状況を勘案して当初予定していた発行予定日を4ヶ月ほど遅らせて、9月23日を刊行日とした。1911年9月23日は西田幾多郎が京都帝国大学に赴任し、「倫理学講義ノート」を使用して倫理学（特殊）の講義を開始した日である。さらに、精緻で入念な再校、再々校を経て、最終校の戻しを行ったのは7月の下旬であった。その間に、より鮮明な図版への差控え、用語の統一、人名表記の確認（『岩波 世界人名大辞典』に準拠）を行った。

完成した別巻は全444頁、装丁クロスと活字は既刊の全集で使われていたものが既になくなっていたので、類似したものに変更した以外は新版『西田幾多郎全集』とほぼ同じ体裁に仕上がった。また、岩波書店は新版全集に少し遅れて別巻の電子版が刊行した。

### 3 資料翻刻の現在

二次翻刻では、分担研究者の森雅秀教授が表紙に「村上専精 印度哲学」と記されている帝国大学在学当時の受講ノート（分類番号A04）を実施しておられる。その一部は既に『報告 3（2019）』で公表しておられる。

研究協力者の中嶋優太、満原健、吉野斉志の3氏は2019年度後半から第四高等学校時代の講義ノートと推定される「論理学」（分類番号A08）をほぼ終えられ、「Granken」（C04）と表記された思索ノートの翻刻に取り組んでおられる。また、高橋麻帆氏は「ゲーテ『ヘルマンドロテア』、シラー『オルレアン乙女』」（分類番号D01）の二次翻刻に取り組んでおられる。表紙にはGoethe, Hermann and Dorothea、裏表紙にはSchiller, Jungfrau von Orleanと記されたノートであり、西田が帝大時代に時代に受講したK・A・フローレンツのドイツ文学講義に関わるノートと推定される。高橋氏はノートの前半部の2次翻刻を終えられ、後半部に取り組みまれており、同時に西田が選科在学中に帝国大学でなされていたドイツ語教育についても調査を続けておられる。

#### （4）資料のデジタルアーカイブ化と資料概

未公開ノート50冊は「西田幾多郎ノート類デジタルアーカイブ」で全画像を公開した。各ノート画像のトップページ（表紙の画像）には内容の概説、作成年代の推定、頁数、形態、使用言語、書き方の体裁、出典調査の有無などの資料情報が記された。資料情報で出典調査の欄に「有」と記されたノートについては、満原、吉野両氏による出典調査の結果を閲覧することができる。また、キーワード検索の他、「使用目的」「時代区分」「使用言語」など11の区分で検索できるように設計された。

また、中嶋専門員の手によって「ノート全50冊の概要」が『西田幾多郎未公開ノート類 報告 4（2020）』に掲載された。修復、翻刻事業と並行してなされた丹念な資料調査の成果であり、資料全体の概要を把握することができる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 浅見洋	4. 巻 16
2. 論文標題 書評 遊佐道子『ブルームスベリー現代日本語研究ハンドブック』（英文）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西田哲学会年報	6. 最初と最後の頁 131 136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32133/jnpa.16.0_131	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 張さつき、高坂節三、浅見洋	4. 巻 68
2. 論文標題 企画展「木村素衛：西田幾多郎に愛された教育哲学者」関連イベント（二〇一八年二月十二日）対談 父・木村素衛からの贈りもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 点から線へ	6. 最初と最後の頁 140-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加藤諭、清水翔太郎、曾根原理、村上麻佑子、浅見洋、井上智恵子、中嶋優太	4. 巻 15
2. 論文標題 展示記録「西田幾多郎と東北大学ゆかりの人々」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東北大学史料館研究報告	6. 最初と最後の頁 3 20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 上原麻有子	4. 巻 48(1)
2. 論文標題 広がる翻訳思想への試論：翻訳の身体性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 95-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋, 中嶋優太, 満原健, 吉野斉志, 秋富克哉	4. 巻 92
2. 論文標題 (パネル) 西田幾多郎未公開ノートの研究資料化 「宗教学講義ノート」を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋富 克哉	4. 巻 16
2. 論文標題 新資料 西田幾多郎「希臘倫理學 (1)」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西田哲学会年報	6. 最初と最後の頁 125 ~ 130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32133/jnpa.16.0_125	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 浅見洋
2. 発表標題 京大での西田幾多郎講義ノートを開くー全集別巻刊行までの軌跡ー
3. 学会等名 2020年京都大学人文学教室オンラインセミナー (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 京都学派最盛期の『哲学研究』を支えた中井正一
3. 学会等名 第36回日本哲学史フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 中井正一の技術哲学と機械美
3. 学会等名 European Network of Japanese Philosophy, 5th Annual Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅見洋
2. 発表標題 西田幾多郎と鈴木大拙ー比較思想の視座から
3. 学会等名 比較思想学会第46回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅見洋, 中嶋優太, 満原健, 吉野斉志, 秋富克哉
2. 発表標題 西田幾多郎未公開ノートの研究資料化 「宗教学講義ノート」を中心に
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅見洋
2. 発表標題 情報化時代における哲学館のレゾンデートルー資料展示と史料保存ー
3. 学会等名 比較思想学会第44回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 浅見洋、中嶋優太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 前田印刷株式会社	5. 総ページ数 186
3. 書名 西田幾多郎未公開ノート研究資料化 報告4 (2020)	

1. 著者名 浅見洋、中嶋優太、井上智恵子、秋富、森雅秀他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 前田印刷株式会社	5. 総ページ数 91頁
3. 書名 西田幾多郎未公開ノート研究資料化 報告3 (2019)	

1. 著者名 石川県西田幾多郎記念哲学館 (編集代表 浅見洋)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 450
3. 書名 西田幾多郎全集 別巻	

1. 著者名 浅見洋、井上智恵子、中嶋優太、山名田沙智子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 石川県西田幾多郎記念哲学館	5. 総ページ数 16
3. 書名 (図録) 西田幾多郎一五〇周年記念 二〇二〇年度後期企画展「本になるー西田幾多郎の執筆・校正・編集ー」	



1. 著者名 浅見洋、井上智恵子、中嶋優太、山名田沙智子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 石川県西田幾多郎記念哲学館	5. 総ページ数 18
3. 書名 図録) 西田幾多郎一五〇周年記念 二〇二〇年度前期企画展「発見 西田幾多郎ノート」	

1. 著者名 大熊玄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 397
3. 書名 西田幾多郎『善の研究』講義 善とは何か	

1. 著者名 浅見洋・中嶋優太・山名田沙智子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 前田印刷株式会社出版部	5. 総ページ数 1-128
3. 書名 西田幾多郎未公開ノート類研究資料化 報告2(2018)	

1. 著者名 浅見洋 中嶋優太 山名田沙智子 編集	4. 発行年 2017年
2. 出版社 前田印刷株式会社出版部	5. 総ページ数 130
3. 書名 西田幾多郎未公開ノート類研究資料化 報告1(2017)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

浅見洋HP  
<https://asami-lab.com>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上原 麻有子  (UEHARA Mayuko)  (40465373)	京都大学・文学研究科・教授   (14301)	
研究分担者	森 雅秀  (MORI Masahide)  (90230078)	金沢大学・人間科学系・教授   (13301)	
研究分担者	秋富 克哉  (AKITOMI Katsuya)  (80263169)	京都工芸繊維大学・基盤科学系・教授   (14303)	
研究分担者	美濃部 仁  (MINOBU Jin)  (50328960)	明治大学・国際日本学部・専任教授   (32682)	
研究分担者	林 晋  (HAYASI Susumu)  (40156443)	京都大学・文学研究科・教授   (14301)	2018年度で京都大学を定年退職のため、2019年度は 分担研究者から外れる。

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------